

日本政府、グローバルファンドに対する 4 億 7,600 万米ドルの支援を確保

2020 年 3 月 27 日

東京— グローバルファンドは、日本の国会において承認された 2020 年度予算の中で、2019 年度補正予算とあわせ、2020 年のグローバルファンドへの拠出金総額 4 億 7,640 万ドルが承認されたことを歓迎します。これはグローバルファンドに対する年間拠出として最大の金額で、世界が新型コロナウイルス感染症との闘いに取り組む中、国際保健における日本の強力なリーダーシップを示すものです。

本拠出は日本のグローバルファンド第 6 次増資の誓約に対するものです。2019 年、日本はグローバルファンドの第 6 次増資に対し、8 億 4,000 万ドルの誓約を発表しました。2019 年 10 月、フランス・リヨンで開催された増資会合に日本政府代表団の代表として参加し、日本のコミットメントを再確認した鈴木馨祐外務副大臣は次のように述べています。「2030 年までに三大感染症を終息させ、実施国が支援から卒業することを成功させることは、グローバルファンドだけでなく国際社会全体の責任である。グローバルファンドは、実施国のオーナーシップを尊重する方針に基づいて、実施国と援助国が共同で資金を出資する革新的手法を採用しており、これは活動の持続可能性及び実施国の自立の鍵となるものだ。今後 3 年間において強化されることを期待する。」

日本政府は、支援対象の各国がグローバルファンドから受け取っている資金の 5% の範囲内で新型コロナウイルス感染症対策に使えるよう柔軟に対応でき、エイズ・結核・マラリア対策事業の継続を確保するグローバルファンドの新しい対応指針を支持しています。ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの推進に主導的な役割を担っている日本は、従来のパンデミック、そして新しい感染症からも脅威を受けない世界を目指しています。

グローバルファンド日本委員会議員タスクフォース共同議長である逢沢一郎衆議院議員は「世界が一丸となって新たな新型コロナウイルス感染症との闘いに取り組んでいるこのタイミングで、同じく脆弱な状況に置かれた人々を支えるグローバルファンドに対する支援ができることを光榮に思います。三大感染症の流行の終息と、全ての人々の健康を守る保健システム強化に向け、日本も国際的なリーダーとして引き続き尽力していく所存です」と述べています。

「国際保健において危機的なこの時期に、日本はユニバーサル・ヘルス・カバレッジの実現と世界の健康安全保障の促進の取り組みの先導を継続しています。」とグローバルファンドのピーター・サンズ事務局長は述べています。「我々は日本の皆さまと安倍首相ゆるぎない支援に大変感謝しています。」

日本は設立当初からグローバルファンドの強力な支援ドナーです。日本が 2000 年の G8 九州・沖縄サミットにおいて感染症を主要課題と位置付けたことが、2002 年のグローバルファンド設立のきっかけとなりました。日本はグローバルファンドの第 5 位のドナー国です。日本およびその他のパートナーとの協働により、グローバルファンドは 3,200 万人以上の命を救いました。

#####



グローバルファンドは、エイズ・結核・マラリアの三大感染症の早期終息を目指す 21 世紀型のパートナーシップです。世界各国の政府、市民社会、民間セクター、感染症に苦しむ人々が手を組み、毎年約 40 億米ドルの資金を集め、100 カ国以上で現場の専門家が実施するプログラムに資金を供与しています。グローバルファンドはさまざまな困難に立ち向かいながら、革新的なアプローチで、政府及び関係機関等パートナーたちとともに感染症に苦しむ人々のために活動しています。

お問い合わせ先：

Ernest Waititu

広報部

携帯電話：+41 79 541 0656

Eメール：ernest.waititu@theglobalfund.org

グローバルファンドについての情報はこちらから：

www.theglobalfund.org

グローバルファンド公式 Twitter：<http://twitter.com/globalfund>

グローバルファンド公式 Facebook：<http://www.facebook.com/theglobalfund>